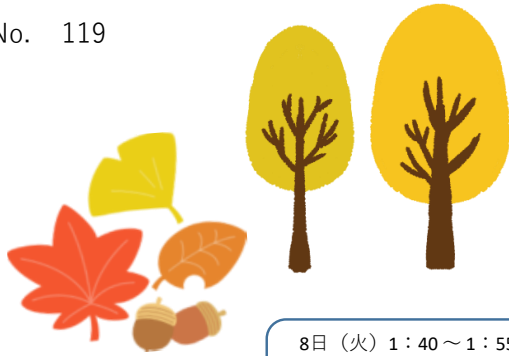


Hoot

ホー

No. 119

2022 ねん 11 月号



8日 (火) 1:40~1:55
ちよこつとおはなし会
1F えほんコーナー

としょかんカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

はおやすみ

こんげつ もよお
今月の催し

※29・30日…おやすみのよていでしたが、あいています。

<p>ととけっこおはなし会 0~3さいむけ えほん^てと手あそびのおはなし会^{かい}</p>	<p>11月 11日 (金) ・ 27日 (日) 11:00~11:20 【3F視聴覚ホール】 ..「おいしい!あきのたべもの」のおはなし会..</p>
<p>まめまめわらべうたの会 あかちゃんといっしょに きせつのわらべうたであそびましょう</p>	<p>11月 19日 (土) 11:00~11:20 【3F視聴覚ホール】 ..11月は「どんぐり」のわらべうたなど..</p>
<p>としょかんおはなし会 えほん^てと手あそびのおはなし会^{かい}</p>	<p>11月 26日 (土) 11:00~11:30 【3F視聴覚ホール】</p>
<p>としょかんおはなし会ミニミニ えほん^てと手あそびの短いおはなし会^{かい}</p>	<p>11月 13日 (日) ・ 20日 (日) 2:30~2:50 【3F視聴覚ホール】</p>
<p>秋のおはなし会ホウホウ 「すばなし」のおはなし会^{かい}</p>	<p>11月 12日 (土) 4:00~4:30 【3F視聴覚ホール】 「ねずみの婿取り」「おばあさんとブタ」..ほか</p>
<p>子ども映画会</p>	<p>11月 12日 (土) 10:30~11:05 ※予約制 (各回20家族) 【3F視聴覚ホール】 「ぴったんこ!ねこざかな 4」(35分)</p>



としょかん **秋のコンサート**

~フルーツとギターで奏でる秋~



とき:11月6日(日)

第1部 13:30~2:00

当日先着60人

【3F視聴覚ホール】

第1部はこどもからおとなまでのしめるコンサートです

(ご1じから3かいエレベーター前でうけつけます)

あたらしくはいったほん

かしだし中のときは「よやく」しておくことができます。

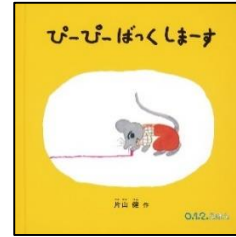
[やさしいえほん]



「おいちにのだーるまさん」

こばやしえみこ 文 こいでやすこ/小淵もも 絵
福音館書店 (やさしい E20オ)

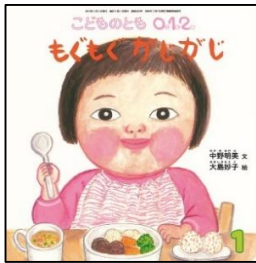
「おいちにのだーるまさん」のかけごえにあわせて、あかいろ、みどりいろ、きいろ、みずいろ、ピンクいろのだるまさんがつぎつぎにとうじょうします。シーソー、なわとび、でんしゃごっこ…なにをあそぶ？



「ぴーぴーばっくしまーす」

片山健 作
福音館書店 (やさしい E20ヒ)

「ぴーぴーばっくしまーす」
ねずみさんが、じめんにせんをひきながらばっくして
いると…「どん」！
だれかのおしりにぶつかった！



「もぐもぐがじがじ」

中野明美 文 大島妙子 絵
福音館書店 (やさしい E20モ)

あみちゃんがミートボールを「あーん」。
ともくんがブロッコリーを「あーん」。
はなちゃんも、ゆうくんも、みんなでいっしょに
「もぐもぐがじがじ もぐもぐがじがじ ごっくん」！

[えほん]



「とびらのむこうにドラゴンなんびき？」

ヴァージニア・カール 作・絵 松井るり子 訳
徳間書店 (E26ト)

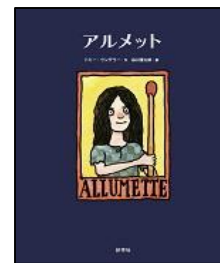
むかし、あるくにのおしろに、13人の^{にん}おひめさまが
すんで^ひいました。ある日、もりでドラゴンに出会った
すえ^こ末っ子のガンヒルダは、ドラゴンをおしろにつれて
かえり、せまい^なこのなかにかくしますが…



「はばたけ！バンのおにいちゃん」

とうごうなりさ 作 上田恵介 監修
出版ワークス (E27ハ)

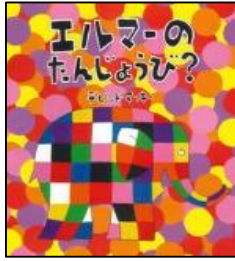
ぼくは「バン」という、^{みず}水べにすむ鳥の子ども。お父^とさんと^こお母さんが^ああたためていたたまごがかえり、ぼくは^たおにいちゃんになった。ぼくは^た食べものをあげたり、^{てき}敵から^{まも}守ったりして、^{おとうと}弟たちの^{せわ}お世話をする。



「アルメット」

トミー・ウンゲラー 作 谷川俊太郎 訳
好学社 (E29ア)

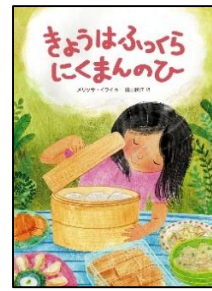
いえ^{おや}家もなく^{まず}親もない^{しょうじょ}貧しい少女、アルメットは、クリ^{よる}スマスの夜、^{さむ}寒さと^う飢えに^た耐え切れず、^{いっしん}一心に^{いの}祈り始^{はじ}める。食べ物、毛布^た・願^{もの}った^{もうふ}ものが^{ねが}空から^{そら}降^ふってくる^{ほか}と、アルメットはそれらを^{ひと}他の人たちに^わ分けあたえ…



「エルマーのたんじょうび？」

デビッド・マッキー ぶんとえ きたむらさとし やく
BL出版 (E29エ)

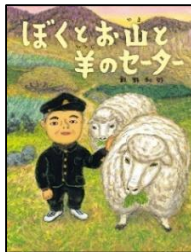
あるあさ、いっとうのぞうがいました。
「あしたは、エルマーのたんじょうびだよ」
なかまたちは、エルマーにないしょでケーキを
もっていき、おどろかそうとけいかくしますが…



「きょうはふっくらにくまんのひ」

メリッサ・イワイ 作 横山和江 訳
偕成社 (E30キ)

きょうは、リリとナイナイ（おばあちゃん）がにくま
^ひ
んをつくる日。おなじアパートにすむほかのおばあ
ちゃんたちも、それぞれりょうりをつくっています。
でも、みんなひとつずつ材料がたりないようで…
^{ざいりょう}



「ぼくとお山と羊のセーター」

飯野和好 作
偕成社 (E30ホ)

^{とし} ^{いえ} ^か ^{ひつじけ}
ある年、ぼくは家で飼っていた羊の毛で、セーター
をあんでもらうことになりました。
^{やま} ^{なか} ^{どうぶつ} ^{そだ} ^{さくしゃ}
山の中でたくさんの動物たちとともに育った作者の、
しょうねんじだいものがたり
少年時代の物語。



「ちしきえほん」

「海に生きる！ウミガメの花子」

黒部ゆみ 写真・文 奥山隼一 監修
偕成社 (ちしき4 E26ウ)

おきなわ ^{ちいき} ^{ひと} ^{あい}
沖縄で、地域の人から愛されているアオウミガメの
^{はなこ} ^{ちゅうしん} ^{さんらん} ^か ^{うみ}
「花子」を中心に、ウミガメの産卵・ふ化から、海
^{たびだ} ^{しょうかい} ^{しゃしんえほん} ^{ちきゅうおんだんか}
への旅立ちを紹介した写真絵本。地球温暖化など、
^{おびや} ^{よういん} ^と ^あ
ウミガメを脅かす要因についても取り上げる。



「あめ、ゆき、あられ、くものいろいろ」

—雨と雲のはなし—

かこさとし 絵と文

農山漁村文化協会 (ちしき4 E29ア)

^{くも}
そらにうかんでいる雲はなにからできているのだろう？
^{くも} ^{くも} ^う ^{あめ} ^{ゆき}
雲ができるしくみ、雲から生まれる雨や雪、あられや
^{かいてつ}
かみなりなどについてイラストで解説します。



「ささやくかぜ うずまくかぜ」

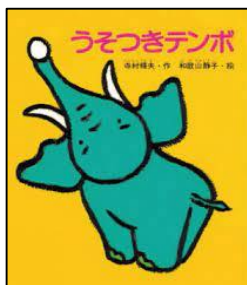
—風のはなし—

かこさとし 絵と文

農山漁村文化協会 (ちしき4 E29サ)

すがたはみえないけれど、いきものみんなのいのちを
^{くうき} ^{かぜ}
ささえている空気。そのうごきである、風のしくみや
^{かいてつ}
はたらきをイラストで解説します。

[やさしいものがたり]



「うそつきテンポ」

寺村輝夫 作

金の星社 (やさしい K913テラ)

ぞうのテンポはうそつきで、いたづらがだいすき。そんなテンポには、ともだちがいません。さみしいテンポはある日、だちょうのおやこをみて、いいかんがえをおもいつきます。

[にほんのものがたり]



「黒と白のあいだで」 一翔の四季 秋一

斉藤洋 作

講談社 (K913サイ)

しょうがく しょう ひ じぶん そば
小学生の翔は、ある日、スポーツカーが自分の側をとおすあとをおくき
通り過ぎた後、その音が遅れてきこえたことに気づく。
「世界は見えたままでも、きこえたままでもない」
しょうお しょうしき だい さく
翔は思いをめぐらせる。「翔の四季」シリーズ第2作。

[がいこくのものがたり]



「チャンス」 一はてしない戦争をのがれて一

ユリ・シュルヴィッツ 作 原田勝 訳

小学館 (K936シユ)

ポーランド生まれの絵本作家、ユリ・シュルヴィッツは、4歳のとき、第二次世界大戦に巻き込まれる。家族とともに各地を転々とし、さまざまな困難を乗り越えた戦時中の記憶を、ユリのイラストや写真とともに描く。

[ちしき]



「津田梅子」 一女子教育を拓く一

高橋裕子 著

岩波書店 (K289)

わずか6歳で、日本初の女性留学生のひとりとしてアメリカに渡った津田梅子。のちの津田塾大学となる女子英学塾を設立し、女子教育に大きな影響を与えました。



「ごみ 世界で一番やっかいなもの」

一リサイクルから環境問題まで一

G・レイド 文・絵 竹内薫 監修 那須田淳 訳

西村書店 (K518)

ごみの分別、リサイクル、廃棄、環境問題など、現代社会を取り巻くごみ問題を、イラストとともに解説します。〈地球の未来を考えるシリーズ〉第3弾。



「“正しい”を疑え！」

真山仁 著

岩波書店 (K914マヤ)

不安社会の中で、「正しさ」にすぎた人々。小説家である作者が、「正しさ」を疑うことの大切さ、疑う力の身につけかたなどについて論じます。